



たてやま おのがんまつり

2015.3 No.25

南総祭礼研究会



館山市神戸地区

佐野

地域の紹介

JR館山駅から南へ10キロほど行った、平砂浦に注ぐ佐野川の川沿いに広がる地域で、地名のおこりは砂丘から下った砂原(砂野「さの」ともいわれています。名前の由来のとおり、平砂浦からの砂との戦いの歴史を持つ稲作地区です。明治二十年には佐野小学校が開校し、戦時中には館山海軍砲術学校が開設され、戦争遺跡が今でも多く残されています。また佐野川に生息していた「オオウナギ」は館山市の天然記念物に指定されています。最後に目撃されたのは昭和三十三年で、重さ4.3kg、胴囲26.7cm、体長1.18mのオオウナギでした。

神社は熊野神社、寺院は千葉院があります。昔は村芝居や花火が行われた賑やかさがあり、年に五人ほど村の経費でお伊勢参りをしていました。現在は百二十戸からなる豊かな自然に囲まれた農作地域となっています。

地域の紹介

自慢の神輿

佐野地区熊野神社の神輿は百二十年以上前の明治二十六年(一八九三)に製作されました。朱と黒の漆に染められた風格ある神輿です。

その風格をさらに引き立てているのが、どれも生き生きとした姿で彫られている彫刻の数々です。これらの彫刻は房州後藤流初代・後藤利兵衛橘義光の手によるものです。後藤義光晩年(七十九歳)の作で、その後、孫の後藤義孝によってさらに手が加えられ現在の姿に完成されました。

欄間に嵌められた「松に鷹」「雲に燕」や下長押の「波に千鳥」「波に蓑亀」、そして小脇には肉厚で迫力ある「波に昇り龍」「波に降り龍」が繊細に彫られています。さらに厚彫りの胴羽目彫刻や露盤には踊るように龍が巻きついていきます。また、四本の堂柱には珍しい意匠の「柱隠し」の龍が彫られています。

屋根には神社紋の左三巴が三つ付けられ、旧神戸村村社熊野神社の神輿として大切にされ、地区の誇りとしている自慢の神輿です。



- 地区名: 佐野
- 神社名: 熊野神社
- 地屋根: 方形普及一直線型
- 屋根葺: 黒漆
- 蔭手: 普及型
- 露盤: 樹型
- 造り: 白木造り
- 胴の造り: 平屋台
- 桝組: 五行三手
- 扉: 前後扉
- 鳥居: 明神鳥居
- 台輪: 普及型
- 彫刻師: 後藤利兵衛橘義光



露盤に巻きつく龍の彫刻



初代後藤義光刻銘と欄間彫刻



胴羽目、小脇、柱隠しと彫刻が並ぶ



小脇の「昇り龍」



「天の岩戸」の図を彫った胴羽目